

日本学術会議会員任命拒否に関する声明

日本パグウォッシュ会議

2020年10月4日

2020年10月1日、日本学術会議により新会員として推薦されていた105名のうち6名が、首相によって任命されなかったことが判明した。

日本学術会議はわが国の科学者を内外に対して代表する機関であり、科学の発展を図り、我が国の行政や産業、社会に科学を反映浸透させるため、政府に対して政策提言や勧告を行なう役割を担っている。首相の所轄ではあるが「独立して」職務を行なうものとされ（日本学術会議法第3条）、独立性を担保するため、会員はあくまで日本学術会議の「推薦に基づいて」内閣総理大臣が任命する（同7条）ことが定められている。

日本学術会議によって推薦された会員の任命を首相が拒否するという今回の事態はきわめて異例であり、日本学術会議法と明白に矛盾するものであると言える。さらに現法が改定された際の「人事に介入しない」旨の国会答弁とも矛盾する。日本学術会議の「独立性」という原則が侵されれば、科学者が時の政権におもねることなく、あくまで科学の観点から社会のあり方について客観的・冷静な助言を行なうという学術会議の責務を果たすこと自体が難しくなるだろう。

日本学術会議は、1949年、戦前の反省の上に、科学を基礎とする文化国家の建設と平和的復興をめざして設立された。同じく平和を希求し、科学者の社会的責任の自覚の上に核兵器廃止を求めて活動するパグウォッシュ会議は、日本学術会議の使命に深く共感すると共に、学問の自由を脅かし、学術会議の存立にかかわるとも言える今回の事態を憂慮する。

10月2日、日本学術会議は菅首相に対し、「任命拒否の説明と撤回」を求める要望書（<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kanji/pdf25/siryo301-youbou.pdf>）を提出した。日本パグウォッシュ会議はこれを支持し、政府が今回の決定を一日も早く撤回することを要求する。

日本パグウォッシュ会議代表 鈴木 達治郎

副代表 栗田 禎子

副代表 高原 孝生